

(楊子曰)「^{トシテ}理無^シ久^{シク}生^{クルモノ}。生非^ズ貴^シ之^レ所^ニ能^ク存^ス。身非^ズ愛^シ之^レ所^ニ能^ク厚^ク。且^ツ久^{シク}生^{クルコト}奚^{ナンゾ}為^{サン}。五^ノ情^ハ好^シ惡^シ、古^{キレ}猶^ホ今^ノ也。四^ノ体^ハ安^ク危^ク、古^{キレ}猶^ホ今^ノ也。世^ノ事^ハ苦^シ樂^シ、古^{キレ}猶^ホ今^ノ也。變^ル易^ク治^ル乱^ク、古^{キレ}猶^ホ今^ノ也。既^ニ聞^{ケリ}之^レ矣。既^ニ見^{タリ}之^レ矣。既^ニ更^{ヘタリ}之^レ矣。百^ノ年^{スラ}猶^ホ厭^{イトラ}其^ノ多^ク。況^{ンヤ}久^{シク}生^{クルコト}之^レ苦^{シキヤ}也^ト乎^ト。」

(『列子』楊朱篇による)

(注)

- 1 五情——耳、目、鼻、口、肌の五官の感覚。
- 2 四体——からだ。
- 3 更——経験する。

問

傍線部A「久生奚為。」と、楊子がここでいつているのはなぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 生きていく苦しみは耐えがたく、またそこには価値も見いだせないのだから、むしろはやく死んだほうが長生きするよりはましだ、と思っているから。
- ② 人のいのちは短くはかないものであり、それは昔も今も変わらないことなのだから、長生きしようとあくせくするのは愚かな努力にすぎない、と思っているから。
- ③ 真理は過ぎてゆく時間の上には含まれておらず、時がうつろえばすぐに捉えがたいものとなってしまいうので、これ以上生きながらえてもむだだ、と思っているから。
- ④ 人の営みはいつの時代も変化はなく、それをひとたび経験した者には百年の寿命でさえ長過ぎるのに、ましていつまでも生きていく苦しみは耐えがたいものだ、と思っているから。
- ⑤ 長生きしたとしても人々の営みのすべてを追体験できるわけではなく、しかも新しい体験もそこでは見いだされないので、長寿のための努力はむなしなことだ、と思っているから。

解 答

--